

心の中の言葉：日本語とドイツ語の比較

学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科

岡本 順治

学習院大学オープンキャンパス 2023

2023年8月4日（金）10:00-11:00

於：学習院大学中央教育研究棟 403 教室

概要：

言葉はコミュニケーションの道具である、と言われますが、言葉は思考の道具でもあり、<心の中でつぶやく>時にも使われます。ただ、その実態を科学的に解明することは21世紀の現代でもできていません。

今回の模擬講義では、このようなく心の中でつぶやく>時の言葉を「心の中の言葉」と呼び、言語学的な分析の一端を日本語とドイツ語の例で示します。「心の中の言葉」は、「ひとりごと」や「独白」という言葉で指すものとほぼ同じです。

話の前半では、日本語の終助詞とドイツ語の心態詞 (Modalpartikeln) に焦点を当てて話を進めます。これらの語を用いることで、通常は他者とのコミュニケーションが調整されるのですが、「心の中の言葉」にもこれらの言葉の一部が入り込んできます。

話の後半では、主にドイツ語の独白表現を考えます。その中でも体験話法 (自由間接話法) という表現法は独特なものです。これは、作中人物の「心の中」を表現するのに小説などで用いられるものですが、直説法と間接話法の間接的な不思議な表現です。この表現法はいったいどんな効果を持っているのかを考えます。

- 1 はじめに
 - 「心の中の言葉」とは、言語研究とは
- 2 「心の中の言葉」の観察：日本語の例
- 3 日本語独特の「心の中の言葉」
- 3.1 独白の終助詞
- 3.2 終助詞なしの普通の表現
- 4 ドイツ語独特の「心の中の言葉」
- 4.1 ドイツ語の独白
- 4.2 修辭疑問文+心態詞
- 4.3 思案法+心態詞
- 4.4 想起文+心態詞
- 4.5 体験話法
- 5 まとめ
- 6 参考文献

1 はじめに

- 「心の中の言葉」とは = 「心の中でつぶやく時に使う言葉」

- 「ひとりごと」

聞く相手がないのに、ひとりでものを言うこと。また、そのことば。独語。

- 「独白」

- ① 演劇で、相手なしに一人でせりふを言うこと。また、そのせりふ。モノローグ。
- ② ひとりごとを言うこと。また、ひとりごと。

- 「モノローグ」 (monologue)

- ① 演劇で登場人物が相手なしにひとりで言うせりふ。独白 (どくはく)。⇔ ダイアローグ
- ② 一人の俳優が演じる芝居。独演劇。モノドラマ。『明鏡国語辞典』

- **mono•logue** (*NAmE* also **mono•log**) /'mɒnələʊg; *NAmE* 'mɑ:nələʊg; -lə:g/ *noun*
 1 [C] a long speech by one person during a conversation that stops other people from speaking or expressing an opinion
 2 [U, C] a long speech in a play, film/movie, etc. spoken by one actor, especially when alone
 3 [C, U] a dramatic story, especially in VERSE, told or performed by one person ⇒ compare DIALOGUE, SOLILOQUY
- **so•lilo•quy** /sə'lɪləkwɪ/ *noun* [C, U] (pl. -ies)
 a speech in a play in which a character, who is alone on the stage, speaks his or her thoughts; the act of speaking thoughts in this way
 SYN monologue

Source: *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. 8th edition (2010)

- **selftalk**: 和英辞典や英和辞典にあるが、英英辞典にはない。

- 独り言

My mother often talks to herself. (母はよくひとり言を言う)

< ◆talks の代わりに speaks は不可. says は (まれ) >

出典: 『ジーニアス和英辞典』第3版 (2011)

- **Selbstgespräch, das** ; (lautes) Sprechen mit sich selbst. <Selbstgespräch führen>
 ドイツ語には「Selbst = 自分自身」「Gespräch = 会話」を組み合わせた語がある。
 (lautes) Sprechen mit sich selbst : 「(声に出して) 自分自身と話す」
- **Monolog, der** ; eine (lange) Rede einer einzelnen Person ohne Partner (vor allem in Theaterstücken oder Filmen) <einen Monolog halten>
 モノローグ: 「話し相手がいないで個々の人が (長く) 話すこと (特に、劇作品や映画において)

Source: *Langenscheidt Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache*. (2019)

● 言語研究とは

「言語」には「自然言語」(natural languages) と「人工言語」(artificial languages) があるが、言語研究 (言語学) というと「自然言語」の研究を指す。

- 自然言語の一般的特徴
1. 人間が無意識のうちに人間社会の中で獲得 (習得) できるもの
 2. 音声¹⁾ と意味で成り立つ記号の体系
 3. コミュニケーションの手段として用いられているもの

- 言語学 (Linguistics)
- 音声研究 (音声学 (phonetics)、音韻論 (phonology))
 - 統語論 (syntax)
 - 形態論 (morphology)
 - 意味論 (semantics)
 - 語用論 (pragmatics)
 - 歴史言語学 (historical linguistics)
 - 応用言語学 (applied linguistics) (心理言語学、社会言語学、方言学、コンピュータ言語学、計量言語学など)

- 共時的言語学
- 1) 個別言語の特徴づけを目指すもの (言語類型論、対照言語学)
 - 2) 普遍を指向するもの (生成文法、形式意味論)
 - 3) 認知言語学 (人間の認知能力と関連づける言語研究)

¹⁾ 手話の場合は、主に手指動作を用いる。

- いずれの立場でも、母語話者が無意識のうちに知っている言語知識を明示的に規則として示すことを課題の一つとしている。
例) この文は変だ {ね/よ/よね/*ねよ}。
- メタ言語を扱う。言語学では、言語で言語の説明をしなければならないので、定義されたメタ言語を用いる。

2 「心の中の言葉」の観察：日本語の例

- 久住昌之原作、谷口ジロー作画『孤独のグルメ』（1994～）
- 『孤独のグルメ』（テレビ東京系列ドラマ）（2012～） 井之頭五郎（松重豊）
- 一人で食べ歩く番組で、ほとんどのセリフがひとりごと
- シーズン1の第一話「門前仲町のやきとりと焼き飯」

<https://www.youtube.com/watch?v=fcAmHJYk174> 孤独のグルメ - YouTube

- 0:22 焼き鳥を食べるのも久しぶりだ**なあ**
 0:33 うん、うまい
 0:35 これでご飯が食べたくなる**なあ**
 0:40 なんでメニューに焼き鳥定食がないんだろう？
 0:47 おっ
 0:49 うまい
 0:51 本当にうまい
 0:53 焼き鳥ってこんなにうまいものだ**っけ？**
 0:59 おいおい、あっという間に6本食べてしまった**ぞ**
 1:10 うまい！
 1:12 なんだろう、このうまさは
 1:15 なんだか、笑えてくる**な**
 1:20 **すいませーん。つくね2本とピーマンください。**
 1:31 になが。になが**ぞ**。
 1:34 でもなんなんだ？
 1:36 新しいピーマンの肉詰めだ**なあ**

3 日本語独特の「心の中の言葉」

3.1 独白の終助詞

なあ《終詞》

⇒ な《終助》①② 「いいなあ」

な《終詞》

- ① 《文節末に付いて》 念を押す気持ちで、相手の注意を引きつけたり、自分に言い聞かせたりする。
「あの**な**、ここでは**な**、タバコはいけないんだ」「おれ**な**、今度**な**、見合いをするんだよ」
▷ 多く男性が親しい間柄で使う。
- ② 《文末に付いて》
 - ㊦ 詠嘆を表す。「きれいだ**な**」「すごい**な**」「早く帰りたい**な**」
 - ㊧ 自分に言い聞かせる気持ちで、推量・自問・納得などを表す。「今日は晴れる**な**」「だれか来た**な**」
 - ㊨ 断定・質問・依頼・勧誘などをやわらげる。「私は反対だ**な**」「もらっていいか**な**？」
「頑張ろう**な**」「気をつけて**な**」「こちらにいらっしゃい**な**」「よく降ります**な**」

【語法】注文する時の「おれ、かつ丼な」は、名詞で言い切る「おれ、かつ丼」に終助詞「な」がついたもので、助動詞「だ」の連体形ではない。

⑤相手の行為を非難したり詰問したりするのに使う。「よくもやったな」「おい、犯人はおまえだな」

- ③《動詞や動詞型活用の助動詞の終止形に付いて》強い禁止を表す。「走るな!」「子供には読ませるな」「ご同輩よ、心配し給うな」

出典：『明鏡国語辞典』

- (1) a. 焼き鳥を食べるのも久しぶりだなあ。
b. 焼き鳥を食べるのも久しぶりだな。
c. 焼き鳥を食べるのも久しぶりだ。

観察 1. (1) a. は、「な」を長音化しており、(1) b. と比較すると詠嘆しているように感じられる（「詠嘆」：感動を声やことばに表す）。岡本（2019: 187-189）参照

観察 2. (1) b. は、「自分に言い聞かせる気持ちで納得」しており、独白を表している。

観察 3. (1) c. は、話し言葉ではない。例えば、紀行文を書いているような場面を想像する。過去にすればなお理解しやすい（焼き鳥を食べるのも久しぶりだった）。

- (2) a. これでご飯が食べたくなるなあ。
b. これでご飯が食べたくなるな。
c. これでご飯が食べたくなる。

観察 1. (2) a. は、「な」を長音化しており、(2) b. と比較すると詠嘆しているように感じられる。

観察 2. (2) b. は、「自分に言い聞かせる気持ちで納得」しており、独白を表している。

観察 3. (2) c. は、ある種の宣言。ただ、聞き手を想定していない表現なので、これでも独白になるが、やや変。

- (3) a. 新しいピーマンの肉詰めだなあ。
b. 新しいピーマンの肉詰めだな。
c. 新しいピーマンの肉詰めだ。

観察 1. (3) a. は、「な」を長音化しており、(2) b. と比較すると詠嘆しているように感じられる。

観察 2. (3) b. は、「自分に言い聞かせる気持ちで納得」しており、独白を表している。

観察 3. (3) c. は、「だ」で文を終えることで断定を表現している。これも、聞き手を想定していない表現で、自分で納得している独白。

つけ《終詞》

⇒ け《終助》

け《終詞》

《断定の助動詞「だ」と過去の助動詞「た」に付いた「だっけ」「たっけ」の形で》

- ① 感慨を込めて回想や想起を表す。「昔はよくけんかしたっけねえ」「そうか、そんなこともあったっけ」
② 忘れたことについて、質問したり確認したりする。「そんなこと言ったっけ?」「それから後でしたっけか、行願寺の寺内へ御引越しなすったのは<漱石>」
◆ 文語助動詞「けり」から。

出典：『明鏡国語辞典』

- (4) a. 焼き鳥ってこんなにうまいもの**だっけ**？
b. 焼き鳥ってこんなにうまいものだ。
c. 焼き鳥ってこんなにうまいんだ。

観察 1. (4) a. の「っけ」は、断定の「だ」の後ろに付き、感慨を込めた想起を表しているようにも感じるが、忘れたことについて確認する行為として発話されている。

観察 2. (4) a. は、上昇のイントネーションを伴って発話される疑いを伴った独白と解釈できる。

観察 3. (4) b. は、「ものだ」があることで不自然な文。

観察 4. (4) c. は、「んだ」（連語「のだ」の口語形）とすることで自然な文になる。意味は詠嘆。

ぞ ㊦〔終助〕

① <活用語の終止形に付いて>強調

㊦相手に対して、自分の判断や決意を強く言い示す意を表す。「さあ、いく**ぞ**」「遅い**ぞ**、早くしろ」

【表現】親しい相手に対して使う。丁寧語に付いた「ですぞ」「ますぞ」は、古めかしい言い方。「頼みました**ぞ**」

㊦自己確認する意を表す。「おや、何か変だ**ぞ**」「彼にはどこかで会ったことがある**ぞ**」

② (文)《疑問を表す語とともに使って》疑問や反語の意を強める。「しからば物語にて人の心所業の良き悪きはいかなる**ぞ**というに<坪内逍遙>」「誰がそんなことを信じよう**ぞ**」

出典：『明鏡国語辞典』

- (5) a. **おいおい**、あっという間に6本食べてしまった**ぞ**。
b. **おいおい**、あっという間に6本食べてしまった。
c. あっという間に6本食べてしまった。

観察 1. (5) a. の「ぞ」は、自己確認の表現。

観察 2. (5) a. は、文頭の間投詞（感動詞）「おいおい」（「軽くとがめたり注意を与えたりするときに使う）」と一緒に使うことで、詠嘆を表す。

観察 3. (5) b. は、「ぞ」を付けないと「おいおい」が不自然。

観察 4. (5) c. は、状態を記述する文で、どちらかという書き言葉（過去を振り返っている）。

3.2 終助詞なしの普通の表現

- 今日が何曜日かを他人に伝える時、日本語では通常 (6) のように言わない。(Matsumoto 1988: 415, Hirose 2013: 13, 岡本 2022: 174)
- 友人に伝達する目的で発話するなら、その状況に応じて (7) a. のように終助詞「**ね**」を加えたり「**よ**」を加えたりする。
- 大勢の前で話をするような伝達状況なら「**です**」のような丁寧表現を用いて、(7) b. のように言う。

(6) 今日は金曜日だ。

(7) a. 今日は金曜日だ {**ね** / **よ**}。

b. 今日は金曜日**です**。

- 今日が何曜日かを他人に伝える時、英語やドイツ語では、普通に (8) a. や (8) b. のように言う。これは、日本語の (6) と同じ形式。
- ここから何がわかるか？
 - 【1】日本語では<対人関係を定めないと伝達できない> という特性がある。(廣瀬幸生「言語使用の三層モデル」、Hirose (2013), 廣瀬 (2022) 参照)
 - 【2】逆に英語やドイツ語では、<対人関係を定めなくても伝達できる>。
- 日本語で対人関係が含まれない形式は何かというと、独白(独り言)なのではないか。つまり、他人に何かを伝えるためには、独白に**伝達用の言葉を追加しなければならない**のが、日本語である。
- 終助詞の中には、伝達機能を持つもの(「よ」「ね」)の他に、独白に「詠嘆」「納得」「想起」「疑い」の気持ちを添えるものがある。

(6) 今日は金曜日だ。

(8) a. Today is Friday.

b. Heute ist Freitag.

(1) a. 焼き鳥を食べるのも久しぶりだなあ。「詠嘆」

(2) b. これでご飯が食べたくなるな。「納得」

(4) a. 焼き鳥ってこんなにうまいものだけ? 「想起」「疑い」

4 ドイツ語独特の「心の中の言葉」

- ドイツ語では、普通の表現で伝達を意図して発話される。では、独白にするにはどうしたらよいか？
 - ⇒ 「聞く相手がいないのに、ひとりでものを言う」表現を探す(実際には、ほぼあらゆる表現が「心の中の言葉」になりうると推測されるが)。
 - 修辞疑問文、➤ 思案法(疑問文になりきれていない疑問文)、➤ 想起文(忘れたことを思い出す時に思わず使ってしまう文)、➤ 間接話法、➤ 体験話法
- これらの表現には、話し手の心的態度を表す語(=心動詞)がしばしば登場する。

● 心動詞 (Modalpartikeln)

- ドイツ語の文法書 Duden: Die Grammatik (2022: 842) には、以下の 16 個が典型的な心動詞 (Modalpartikeln) と見なされている。
aber, auch, bloß, denn, doch, eben, eigentlich, etwa, halt, ja, mal, nicht, nur, ruhig, schon, vielleicht
- これらの語群は、主に会話で用いられ、話し手の心的態度を表すと言われている。詳細は、岡本 (2013, 2022) を参照
- これらの語群は、ゲルマン系諸語 (オランダ語, スウェーデン語, ノルウェー語など) だけでなく、ロシア語やハンガリー語でも類似した語群がある。
- 英語の場合、会話で多用される like, well, Y'know などと同じような心的態度を表す。Schourup (1983)、神尾 (1990: 60-61) 参照

4.1 ドイツ語の独白

○ 「大きい声で考える」 = 「声に出して考える」 = 「ひとりごと」?

- ドイツ語には、laut denken (大きい声で考える) という表現がある。これは、「ひとりごとを言う：声に出して考える」と独和辞典には和訳されている。

- 英語でも think aloud があり、『ジーニアス英和辞典』には、「[通例 be ~ing] 考えごとを口に出す、思わずひとり言を言う。」と書かれている。

- (8) »Der Muttertag als Stressor? Ja, warum eigentlich nicht?«, **überlegte** der Profiler **laut**.
 the mother's-day as stressor yes why MP not thought the profiler aloud
 '「有害因子としての母の日？そうか、いったいなぜそうでないんだ？」とそのプロファイラーは、声に出して考えた。' MP: 心態詞 Neuhaus (2019:369)

4.2 修辞疑問文+心態詞

修辞疑問文 (rhetorical questions) :

- [1] 聞き手に答えを求めない疑問文。
- [2] 背後には話し手の主張がある。

- (9) Wie kannst du mich nur so lange warten lassen? Weydt et al. (1983: 86)
 how can you me MP so long wait let
 'どうして君は私を (ただ) そんなに長く待たすことができるんだ?'
 ⇒ (主張) 私をそんなに長く待たせるんじゃない！

- (10) Wie hat er die Arbeit bloß/nur geschafft? Helbig (1990: 103, 191)
 how has he the work MP₁/MP₂ done
 'どうやって彼は (いったい) その仕事をやりとげたんだ?'
 ⇒ (主張) 彼がその仕事をやり遂げられるわけではないだろ！

○ [bloß/nur (adv.) = only] ⇒ 話し手の [非難、呆然 (ぼうぜん<あっけにとられているさま>)、怪訝 (かいがくげんに思うこと>)、不快、あきらめ、など]

4.3 思案法+心態詞

○ **Deliberativ [男]** 思案法 :

(ギリシア語などで1人称主語の「どうしたものか」と思案する気持ちを表す接続法の一用法) 『独和大辞典』

思案法は、

- [1] 疑問文になりきれしていない疑問文で、
- [2] 話し手の不確かな気持ちの表明であり、
- [3] 独白である。

- (11) Ob ich wohl die Prüfung bestehe? Thurmair (1989: 143)
 whether I MP the test pass
 '私はそのテストに受かるかなあ?'

○ [wohl adv.] おそらく、たぶん；まったく ⇒ 話し手の [あやふやな推測]

4.4 想起文+心態詞

○想起文 :

忘れたことを思い出す時に、思わず口に出す表現。

この表現は、

[1] 本来発話する必要がなく、

[2] 聞き手に聞いてもらうことを意図しない。

(12) Wer war das doch gleich? Helbig (1990: 114)

who was that MP immediately

'それは誰だったのかすぐに出てこないなあ?'

○ [doch (返答詞) 否定疑問文に肯定で答える (質問者に反駁)] ⇒ 話し手の [自分が知らないわけではない、という肯定の気持ち]

4.5 体験話法

- ドイツ語の話法 (話し手を含む人の発言や思考内容を伝達する表現法) には、[1] 直説話法、[2] 間接話法、[3] 体験話法 (自由間接話法) がある。
- 直説話法: 元の発話に使われた言葉をそのまま使う形式、
- 間接話法: 伝達者の視点から元の発話を再構成して表現する形式、
- 体験話法: 三人称過去形の形式で、登場人物の心の声を伝える形式

(13) 直説話法 (Direkte Rede) Sie fragte: „Was soll **ich** jetzt nur tun?“

she asked what should I now only do

'彼女は尋ねた「私は今、何をしたらいいの?」'

(14) 間接話法 (Indirekte Rede) Sie fragte, was **sie** jetzt nur tun sollte.

she asked what she now only do should.**KONJ-I**

(15) 体験話法 (Erlebte Rede) Was sollte **sie** jetzt nur tun?

what should.**PAST** she now only do

- 体験話法: 直説法過去形の形式だが人称は間接話法と同じで登場人物の心の声を伝えるものだが、**単純な過去形の文と区別がつかないことがある。**
- 体験話法の見分け方 (必ずこれらの特徴があるわけではない):
 - 話法の助動詞 (**sollen, müssen, dürfen** など) で登場人物の希望とか推測が表現される。
 - 推測や疑いを表現するような言い回しが使われる (vielleicht や vermutlich)。
 - 心態詞 (eh, halt, eben) のような口語的な心的態度を表す表現が用いられる。参照: studyflix <https://studyflix.de/deutsch/erlebte-rede-4820>
- 語り手が登場人物の考えを読んで再現しているように感じるので、**語り手がほとんど登場人物と融合してしまう印象**を与える。
⇒ 三人称の登場人物が語り手となって自分のことを話し始めるのは、あたかも霊がのりうつったかのよう。
- 体験話法は、一人称で語られないので表面的には独白ではないが、「心の言葉」ではある。

(16) Wenn er diesen albernen Kosenamen und den unterwürfigen Tonfall, in dem Karoline

if he this silly pet-name and the obsequious intonation in which Caroline

ihn aussprach, nur schon hörte!

Neuhaus (2021:20)

it pronounced MP₁ MP₂ hear.**KONJ-II**

- (16) は、過去形の文として直訳すると (A) のようになるが、これは間違い。
× (A) 彼はこの馬鹿げた愛称と
 カロリーネがその愛称を発音する時の
 へりくだった口調を聞かなければよかったのに！
- (16) は、体験話法として、(B) のように和訳しなければならない。
○ (B) 私はこの馬鹿げた愛称と
 カロリーネがその愛称を発音する時の
 へりくだった口調を聞きたくない！
- er : 三人称単数 (ここでは、主人公の一人 Bodenstein を指す)
- aussprach : aussprechen の過去形 (aussprechen: …を発音する)
- Wenn er diesen Kosenamen …nur schon hörte! (接続法の仮定部分を独立させて願望を表現) その中に nur schon という心態詞が入っている。

★ 背景 :

- ☞ 主語の「彼」 = (影の語り手「私」) はオリバー・ボーデンシュタイン
- ☞ 妻はカロリーネ・アルブレヒト (夫婦別姓)
- ☞ 二人は再婚、オリバーにはゾフィアという 12 歳の娘が、カロリーネにはグレータという 18 歳の娘がいる。
- ☞ グレータは、高校 (ギムナジウム) で学業についていけず、家で引きこもっている。
- ☞ グレータはゾフィアを日常的に家でいじめている。
- ☞ 母親のカロリーネは、このシーンの少し前で、娘のグレータを Gretalein と呼んだ。
- ☞ オリバーは、この Gretalein という愛称を妻のカロリーネがへりくだった口調で言ったことで、切れた。

5 まとめ

- この講義で「心の中の言葉」と呼んだのは、およそ「ひとりごと」や「独白」のことで、話し相手がいない状況で心の中でつぶやく言葉のこと。
- 日本語では、通常**の表現が独白**である。**伝達するために必要な言葉を付けることで、伝達する表現になる** (終助詞や丁寧語)。
- 例外的に独白で使われる終助詞があるが、詠嘆と関係している。
- ドイツ語では、通常**の表現が伝達用の言葉**なので、情報伝達用の言葉を付ける必要なく、話し相手に情報を伝えることができる。
- ドイツ語では、**独白用の表現**がある : 修辞疑問文、思案法、想起文。(日本語でも表現可能)
- それらの文には、典型的に**心態詞が添えられる** (話し手の心的態度を表す表現)。
- **体験話法**は、独り言ではないが、三人称の登場人物が語り手となって自分のことを話すので、「**心の中の言葉**」として受け取ることができる。

6 参考文献

- Götz, Dieter (2019) *Langenscheidt Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache*. München/Wien: Langenscheidt.
- Helbig, Gerhard (1988) *Lexikon deutscher Partikeln*. Leipzig: Verlag Enzyklopädie Leipzig.
- Hirose, Yukio (2013) Deconstruction of the Speaker and the Three-Tier Model of Language Use. *Tsukuba English Studies* 32, 1-28.
- 廣瀬幸生 (2022) 「他者の思いをことばでいかに利用するか — 日英語における主観の客体化研究 —」 廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・長野明子 (編) 『比較・対照言語研究の新たな展開—三層モデルによる広が

りと深まりー』東京：開拓社、2-34。

Hornby, Albert Sidney (ed.) (2010) *Oxford advanced learner's dictionary of current English*. 8th edition. Oxford: Oxford University Press.

神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』東京：大修館書店。

北原保雄 (編) (2011) 『明鏡国語辞典』第二版東京：大修館書店。

国松孝二 [ほか] (編) (2000) 『独和大辞典』東京：小学館。

Matsumoto, Yoshiko (1988) Reexamination of the Universality of Face: Politeness Phenomena in Japanese. *Journal of Pragmatics* 12, 403–426.

Neuhaus, Nele (2019) *Muttertag*. Berlin: Ullstein.

Neuhaus, Nele (2021) *In ewiger Freundschaft*. Berlin: Ullstein.

南出康世・中邑光男 (編集主幹) (2011) 『ジーニアス和英辞典』第3版東京：大修館書店。

岡本順治 (2013) 「心態詞」『講座ドイツ言語学第1巻ドイツ語の文法論』, 岡本順治・吉田光演 (編), 243-264, 東京：ひつじ書房。

岡本順治 (2019) 「ドイツ語の心態詞と日本語の終助詞を使った『驚き』と『独白』の表示：その共通性と違い」 *Conference Handbook 37 The English Linguistic Society of Japan*, 186-191.

岡本順治 (2022) 「三層モデルで心態詞の使用を説明する — 相互行為層の導入 —」 廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・長野明子 (編) 『比較・対照言語研究の新たな展開—三層モデルによる広がりや深まり—』東京：開拓社、165–189。

Schourup, Lawrence C. (1983) *Common Discourse Particles in English Conversation*. *Ohio State University Working Papers in Linguistics* 28, Ohio State University.

Thurmair, Maria (2013) Satztyp und Modalpartikeln. Jörg Meibauer/Markus Steinbach/Hans Altmann (eds.) *Satztypen des Deutschen*. Berlin: de Gruyter, 627–651.

Weydt, Harald et al. (1983) *Kleine deutsche Partikellehre: Ein Lehr- und Übungsbuch für Deutsch als Fremdsprache*. Stuttgart: Ernst Klett.

Wöllstein, Angelika/Dudenredaktion (eds.) (2022) *Duden: Die Grammatik*. 10., völlig neu verfasste Auflage. Berlin: Dudenverlag.

参照ウェブサイト

ponycanyon (2012) 「孤独のグルメ - YouTube」 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=fcAmHJYk174>
(参照日：2023年7月22日)

studyflix (n. d.) *Erlebte Rede • Merkmale, Definition und Beispiele* [mit Video] URL: <https://studyflix.de/deutsch/erlebte-rede-4820> (参照日：2023年5月12日)